

十和田風力開発株式会社がお届けする

風のおたより

2026年4月

Vol.6



今回の内容

- ①テーマ関係者による座談会 …………… P.2,3,4
『再生可能エネルギーと地域との共生』
～自分たちの地域を考えるきっかけに～
- ②(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業概要 …………… P.4

ごあいさつ

(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業の事業地である十和田市にお住いの皆さんへ向けて、『風のおたより』をお届けいたします。

本おたよりでは、地球温暖化や再生可能エネルギー、(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業の背景について取り上げるほか、これまで寄せられた懸念やご質問に対する事業者の取り組みや方針についてもお伝えしてまいります。座談会では、

各号のテーマに関係する方をお招きし、テーマに即した情報をお届けいたします。

なお、本おたよりの内容に関するご感想やご意見は、裏面に記載の弊社HP内にある「お問い合わせフォーム」へお寄せいただけますと幸いです。

いただいたご意見は、次回以降のおたよりや今後の参考とさせていただきます。



『再生可能エネルギーと地域との共生』

～ 自分たちの地域を考えるきっかけに ～

今回ご参加いただいた皆様

- ・石川 隆大さん
(株式会社 石川設計 代表取締役社長)
- ・脊戸 潤子さん
(有限会社 田島生花店 専務・コーディネーター)
- ・竹内 彩乃さん
(東邦大学 理学部 生命圏環境科学科 准教授)



(本対談は2026年1月27日に行っております)

司会 本日は「再生可能エネルギー(以下「再エネ」という)と地域との共生」をテーマに、十和田市民の石川さん、脊戸さん、東邦大学の竹内先生にご出席いただきました。

「再エネと地域との共生」のイメージ

司会 「再エネと地域との共生」について、どんなイメージを持たれていますか。

石川 風車を建てたら環境に何かしら影響はあると思うし、環境汚染の可能性もゼロではないと思います。また、日本人の根底には、神社や信仰心に基づいた『畏れ』や『穢れ(けがれ)』といった感覚が強くあります。たとえ確率が低くても『生牡蠣を食べて当たったらどうしよう』と不安になる感覚に近いものかもしれません。大事なのは、『リスクとして受け入れた上で、僕らは何をしようとしているのか』を考えることだと思います。ただ「環境が壊れる」のみで論じたり、感情的に意見を出し合う状態はどうかと思います。



石川氏

また、事業者の報告会の情報(※本対談より前の報告会への参加経験あり)は、景観を少し解決とか、風車を何基建てます、あるいはお金の話で情報が少ないように感じます。

脊戸 イメージ的に山の木が切られ、木々が無くなっていく。災害が発生した時には「木が

無いからだよね」という話になると思うんですよね。

共生はゴール、協働は行動

司会 竹内先生は、地域協働をご専門とし、再エネと地域の協働関係についても知見をお持ちです。経歴や共生と協働の違いをお話し願います。

竹内 20年ほど前に大学院で『協働』の研究をしたのち、ドイツの再エネの会社に就職しましたが、事業の利益追求と地域協働との間で葛藤がありました。その後、事業者の利益と地域のメリットの両立方法を再び探りたくて大学に戻り、今の立場に至っています。

「共生」と「協働」の違いについては私の中では、『共生』は目指すべき理念やビジョン、いわば最終的な「状態」を指します。対して「協働」は、それを実現するための具体的な仕組みやプロセス、活動のことです。

つまり、一緒に何かを形にしていく『協働』というステップを積み重ねた先に、最終的なゴールである『共生』があると考えています。



地域とつながる協働活動

司会 事業者の取り組みや他事業者で印象に残る協働活動はありますか。

脊戸 山に風車が建っているな、何か事業をやっているんだなというのが市民の一般的な感



覚だと思えます。私は花屋なので、花にまつわる活動に関心があり、東日本大震災の後の話ですが、ひまわりを植える活動を通してみんなの活力やエネルギーに繋げていこうという取り組みを気にかけて拝見していました。そのひまわりも市場に出ていい流れになっていました。

石川 取り組みについては、私も以前から説明会に足を運んだり、自分なりに動いたりしてきました。地元の商工会議所の青年部で会長をしていた頃には、説明会の開催をお手伝いさせていただいたこともあります。少しでも皆が知る機会を創出できればと思っていました。やはり事業者の皆さんのことが地元はまだ正しく伝わっていないと感じていますし、公の場でしか接点がない今のコミュニケーションをどう変えていくべきかをずっと考えていました。

司会 今後に向けて地域の皆様に知っていただきたい取り組みを事業者から述べてもらえますか。

事業者 報告会以外の接点として、ホームページにて頂戴したご質問に回答するといったことに加え、「風のお便り」の発行など皆様にご理解いただけるような取り組みを模索しながら進めております。昨年7月に施行された青森県の再エネ共生条例や環境影響評価法に基づき、いかに環境負荷を抑え、そして地域に対してどのようなメリットを提供できるかというのを計画として示し、皆さんの信頼を得ていきたいと考えています。



竹内先生



業を支える。そんな「目に見える形での貢献」など、色々なプログラムに風力が生かされている例があります。

環境影響への懸念と対応

石川 なるほど。そうなるとう気になるのがリスクの面です。バードストライク（鳥の衝突）や健康被害はどうですか。十分な知識がないため、その点に不安や不信感を抱いています。

事業者 非常に重要な点だと思います。環境影響評価という法律の枠組みの中で、国や県が選任した専門家による審査を受けながら進めております。こうした専門的なデータも、噛み砕いて分かりやすく地域の皆様にはお伝えしていく必要があると感じています。

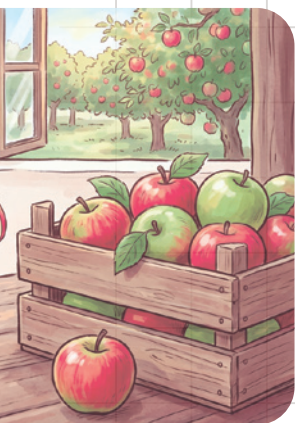
石川 景観に馴染むように風車を白く塗ると、逆に鳥にとって避けるべき対象が見えにくくなるという矛盾がバードストライクを生むと思います。風車を目立つ色彩にしたらどうなるのかなどいろいろ考えられますね。

脊戸 やっぱ山が変わってしまうのが不安ですね。また、風車が動かなくなった結果、廃棄に巨大な費用がかかることで放置され、そのまま“山の廃墟”になるんじゃないかと心配です。

事業者 環境影響評価法では、事業運転後の「事後調査」を求められることが多くあります。鳥や自然環境への影響が懸念されれば、運転開始後も調査の継続が求められます。例えば、バードストライクが懸念される事業であれば、「運転開始後も継続して調査を行うように」といった指示が出ます。私共としましても、審査会等でそのようなご指導をいただいた際には、しっかりと対応いたします。また、撤去や原状回復についても、法律や条例に基づいた積み立てや計画が求められております。



脊戸氏



地域貢献につなげたい

石川 先生、具体的にこれまでどのような取り組みが他で行われてきたのか知りたいのですが、事例などをご紹介いただけませんかでしょうか。

竹内 私が以前勤めていたドイツの企業では、風車で失われる自然の代替として『りんご農園』を作りました。単に木を植えるだけでなく、収穫したりんごで度数の高いお酒（シュナップス）を作り、それを地域ブランドとして流通させたんです。日本でも、福井県内では風力事業者の開発担当者が地元の林業に関わり、林道を整備したり、間伐材を活用した漁礁づくりを支援する事例があります。人手が足りない地域に、企業が「人手」や「技術」となって入り込み、基幹産

「新たな価値創出」への期待

司会 事業者としては今後どんな取り組みを考えておりますか。

事業者 「地域がどのようなことを求めているのか」を、しっかりと把握していく必要があると考えています。この風力事業を通して、地域の課題解決や必要な支援にどう貢献できるか引き続き検討していきたいと考えております。例えば、他事案での事例ですが、林業の現場で「伐採した木材を搬出するための道路が狭く、作業に支障が出ている」というご相談を受けた

ことがあります。その際、私たちが事業でその道路を利用させていただく代わりに、通行に支障があった道路の拡幅や改良を行うことで木材搬出が円滑に行える環境を整えたことで、地域の林業活動の円滑化に貢献することができました。地元のニーズや課題を丁寧にお伺いしながら、地域貢献にしっかりとつながるよう検討していきたいと考えています。

石川 先生がおっしゃったような「新たな価値の創出」や「魅力の創出」が提示されない限り、地域のシンボルにはなれないと思うんです。資源が循環している実感や、そこから新しい商品が生まれるといった「面白さ」が欲しいですね。

竹内 風が吹くことによって、地域みんなで喜べる仕組みづくりができるといいですね。地域おこし協力隊と連携した観光プログラムなど、可能性は無限にあると思います。

次世代につなぐ地域の未来

司会 事業者の立場としては、地域のニーズを吸い上げながら、地元の皆様が考える未来像にどうお手伝いしていくかは重要に感じますね。

石川 僕の会社では、若いスタッフに「好きにしろ」と言ってオフィスをカスタマイズさせています。自分たちの提案が形になるのは楽しいし、それがモチベーションになる。街づくりも同じで、決裁権を持つ人たちだけでなく、若者や北里大学の学生さんのような、街

の外からの新しい感性を持つ人たちを入れていくほうが面白いのではないかと思います。

脊戸 私たち大人が子供に説明できないようではいけないですね。「自分事」として、将来の土台作りを一緒に関わっていければと思います。

竹内 お二人は本当に大事なことを語られていると感じました。風力発電は、実は「地域を考えるきっかけにすぎない」と思います。これをうまく生かして、地域の未来を作っていくことが重要です。

過去に北海道の石狩でワークショップをしました。テーマは「2050年持続可能な未来に向けて残したい石狩」で、議論したら、最終的に「子供たちが笑顔で暮らせる地域」という意見が多くでました。そこから市役所が「地産地活博」というイベントを企画し、子供たちが洋上風力に触れる機会を作りました。親御さんからも「こんな活動あるの知らなかった」という声が増えました。そういう機会を増やしていくことが地域の未来につながると思います。

司会 本日は皆さまの率直なご意見や未来への思いを伺うことができました。風力発電事業と十和田市の共生を考える上で、多くのヒントをいただきました。「風のおたより」を読んでくださる十和田市の皆さまにとっても、本事業が地域の未来を考えるきっかけになれば幸いです。

(仮称) 惣辺奥瀬風力発電事業概要

① 計画概要

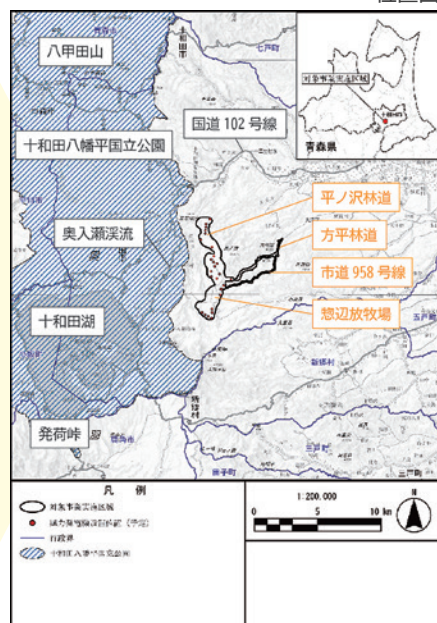
風力発電所総出力：最大 109,200kW
 風力発電機出力：4,200kW
 設置予定基数：最大 26 基

② 事業経緯

2018年：計画開始(事前調査および風況調査準備)
 2019年：風況観測開始(風況観測塔設置)
 2020年：配慮書縦覧(環境影響評価法に基づく)
 2021年：方法書縦覧・住民説明会実施(環境影響評価法に基づく)
 2022年：第1回中間報告会を開催・現況調査(動植物・景観等)実施
 2023年：第2回中間報告会を開催
 現況調査を踏まえ周辺環境への影響を予測評価
 2024年：第3回中間報告会を開催・風況観測完了
 2026年：第4回中間報告会を開催

※第4回中間報告会(2026.3)時点の計画です。
 引き続き、県共生条例等を踏まえて事業計画を多角的(周辺環境への配慮等)に検討してまいります。

位置図



発行 発行 発行

十和田風力開発株式会社

〒034-0012 青森県十和田市東一番町4-37

TEL 0176-58-0090

HP (お問い合わせ先): <https://towadawindpower.jp/>



※ご意見や感想につきましては、HPのお問い合わせまでお願いいたします。なお、お問い合わせフォームへの正確な情報にご協力願います。